

福生市
男女共同参画に関するアンケート調査
報告書

令和8年3月
福生市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査設計	1
3	回収結果	1
4	報告書を見る際の留意点	1
II	調査の結果	2
1	ご自身やご家族について	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	婚姻状況	3
(4)	回答者と配偶者・パートナーの職業	4
(5)	勤務先の地区	6
(6)	子どもの有無	7
(7)	最年少の子どもの年代	7
(8)	家族構成	8
2	家庭における男女の役割分担について	9
(9)	男女の役割分担（現状と理想）	9
(10)	家庭生活における役割分担	13
(11)	男性が家事・育児に積極的に参加するために必要なこと	26
(12)	仕事・家庭・個人生活の優先度（現状と理想）	28
3	地域・社会参加について	33
(13)	地域活動への参加状況	33
(14)	地域活動における男女の役割意識	35
(15)	災害対応において性別配慮が必要な取組	42
(16)	女性リーダーを増やすうえでの障害	44
4	勤務状況について	46
(17)	週あたりの労働時間	46
(18)	職場における男女の格差や問題の有無	47
(19)	女性の望ましい職業継続のあり方	49
(20)	育児休業・介護休業の取得状況と予定	50

(21) 休業制度を利用しない理由	52
(22) 女性が結婚・出産後も働き続けるために必要なこと	54
(23) 男女が仕事と生活を両立するために必要なこと	56
5 介護・定年後について	58
(24) 家族に介護が必要になった場合の就労継続意向	58
(25) 定年後を豊かに生きるために有効な取組	59
6 健康（性の権利・考え方）について	61
(26) 女性の健康・性を守るために必要なこと	61
7 教育について	63
(27) 男女共同参画社会のために重要な教育内容	63
(28) 子どもの性教育の望ましい方法	65
8 男女の人権について	67
(29) 配偶者や交際相手からの暴力経験	67
(30) 暴力を受けた際の相談先	69
(31) 相談しなかった理由	70
(32) DVやセクハラをなくすために行政に必要な取組	72
9 男女共同参画社会の形成について	74
(33) 男女共同参画に関する関心度	74
(34) 男女共同参画に関する事業や用語の認知度	75
(35) 福生市審議会委員の女性比率への意識	79
(36) 各分野における男女平等の実感	80
(37) 男女共同参画に対する意識や関心が変化したか	90
(38) 男女共同参画に対する意識や関心の変化を感じた理由	91
(39) 多様性を生かした社会づくりで行政が力を入れるべきこと	93
(40) 性的少数者に対する取組の必要性	95
(41) 男女共同参画社会を実現するために重要な取組	96
(42) 自由記述	98
Ⅲ 調査のまとめ	101
Ⅳ 調査票	105

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、福生市男女共同参画行動計画（第6期）の計画期間が令和8年度に満了するため、新たな計画の策定に向け、男女平等に関する市民の意識の変化を把握し、今後の男女共同参画施策に反映させることを目的として実施しました。

2 調査設計

- 調査地域：福生市全域
- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の18歳以上の男女2,000人
- 調査期間：令和7年10月31日～令和7年11月28日
- 調査方法：郵送配布・郵送またはインターネット回答による回収

3 回収結果

配布数	有効回収数	回収率
2,000	818	40.9%

4 報告書を見る際の留意点

- 1 図表内の「n」とは、該当の設問における回答者（有効回収数）のことである。
- 2 集計は百分率（%）で小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記している。そのため、単一回答の設問であっても、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 3 複数回答が可能な設問の場合、回答比率は、各選択肢の回答者数を「回答者数（n）」で除して算出している。そのため、1人が複数の選択肢に回答することで、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- 4 表内の網掛け（ハッチング）は、各属性（行）において、選択肢のうち最も回答比率が高かった項目（「その他」「無回答」を除く）を示している。
- 5 本文や図表における選択肢の表記は、読みやすさを考慮し、一部文言を簡略化して記載している場合がある。
- 6 本文および図表において示される「前回調査」とは、以下の調査を指す。

【前回調査の概要】

- 調査地域：福生市全域
- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の20歳以上の男女2,000人
- 調査期間：令和元年10月21日～令和元年11月5日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による調査
- 回収結果：配布数2,000、回収数521、回収率26.1%

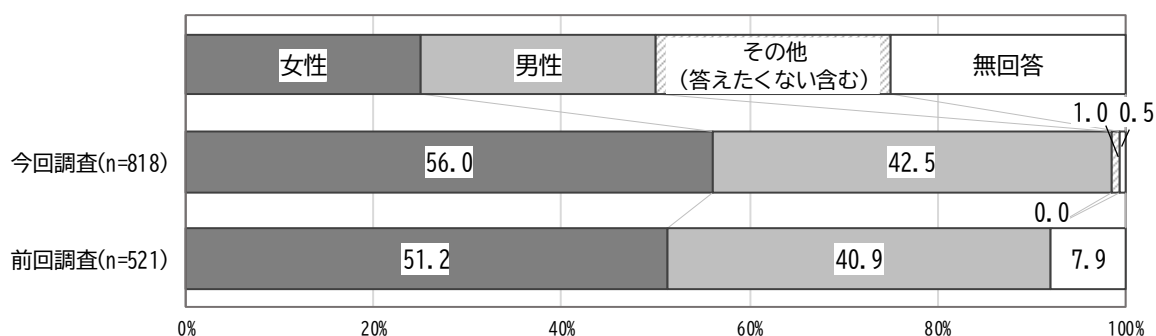
II 調査の結果

1 ご自身やご家族について

(1) 性別

F 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

性別は、「女性」56.0%、「男性」42.5%、「その他(答えたくない含む)」1.0%となっています。



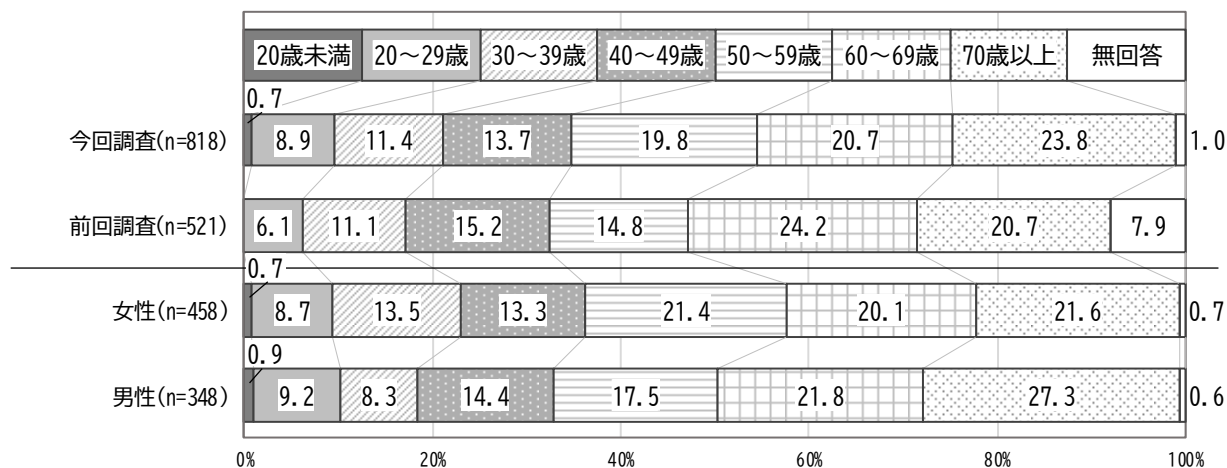
(2) 年齢

F 2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

年齢について、「70歳以上」(23.8%)が最も高く、次いで「60～69歳」(20.7%)、「50～59歳」(19.8%)となっています。

性別でみると、女性の50歳以上の各年代、男性の60歳以上の各年代で2割を超えています。

前回調査と比較すると、「70歳以上」が3.1ポイント、「40～49歳」が5.0ポイント上昇し、「60～69歳」が3.5ポイント低下しています。



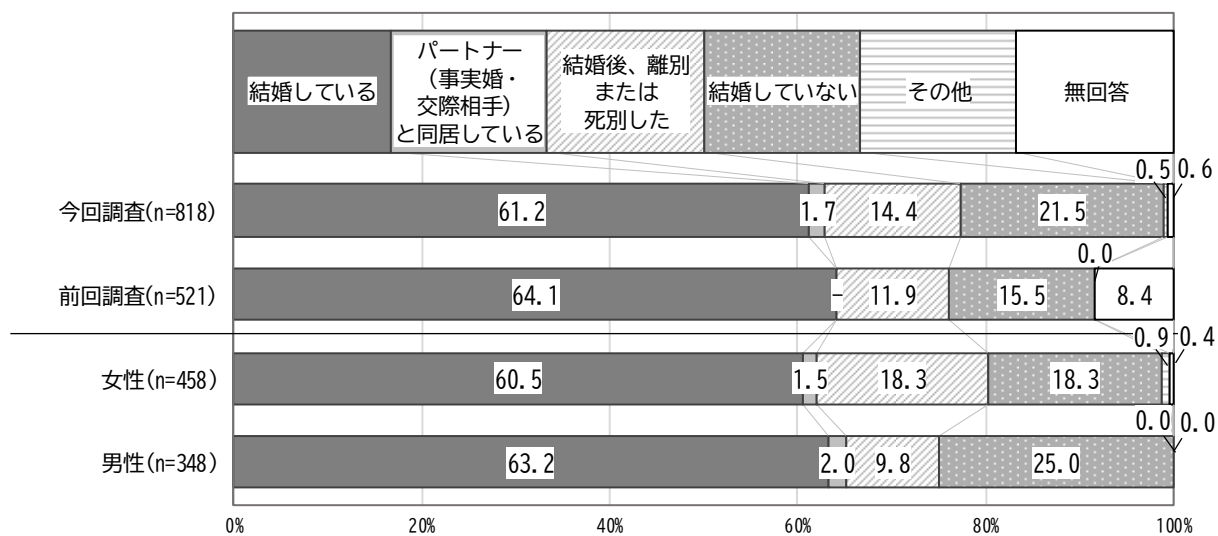
(3) 婚姻状況

F3 あなたは現在ご結婚されていますか。(〇は1つ)

婚姻状況について、「結婚している」(61.2%)が最も高く、次いで「結婚していない」(21.5%)、「結婚後、離別または死別した」(14.4%)となっています。

性別で見ると、「結婚している」と回答した割合は男性が女性を2.7ポイント上回っています。一方で、「結婚後、離別または死別した」については、女性が男性を8.5ポイント上回っています。また、「結婚していない」と回答した割合は、男性が女性を6.7ポイント上回っています。

前回調査と比較すると、「結婚している」が2.9ポイント低下しています。一方で、「結婚していない」が6.0ポイント上昇しており、未婚層の割合が増加している傾向がみられます。



(4) 回答者と配偶者・パートナーの職業

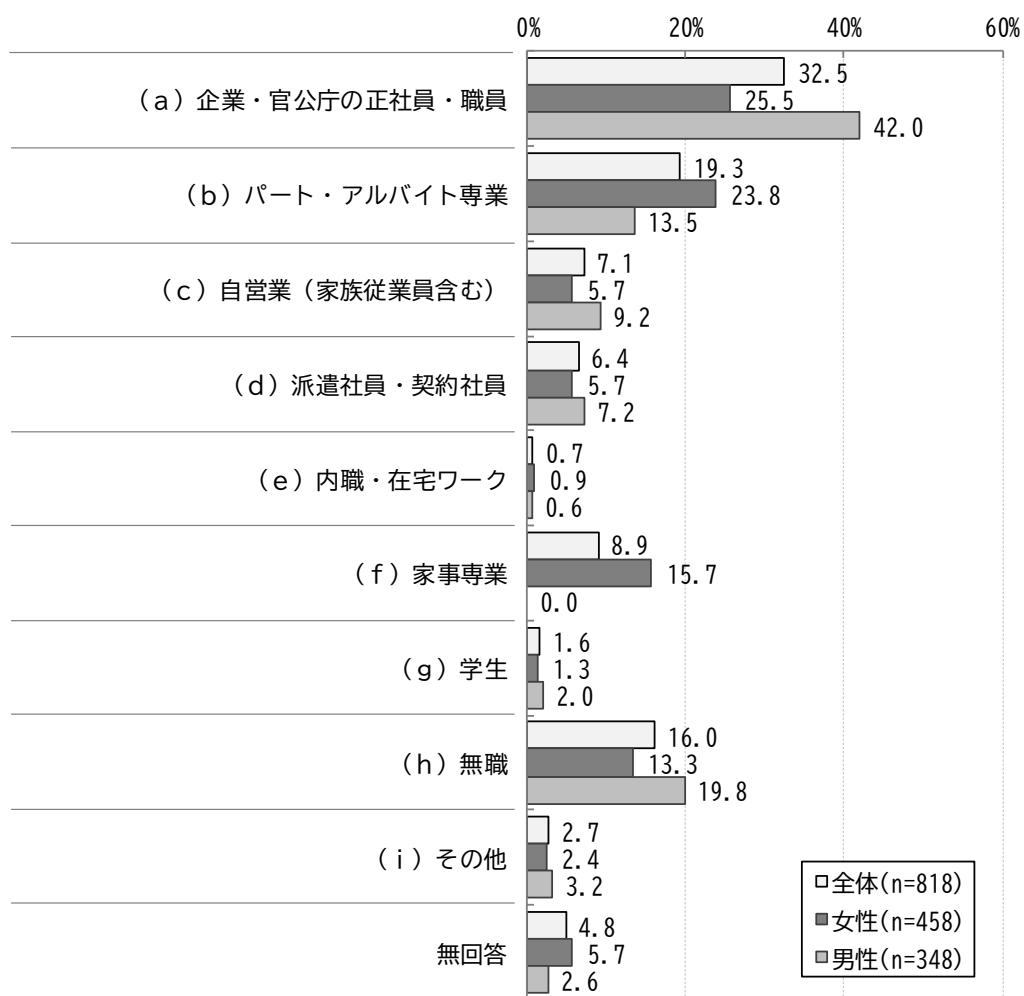
F 4 あなたと配偶者・パートナーの職業はどれに当てはまりますか。配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄のみご記入ください。(①と②それぞれ〇は1つ)

■ ①回答者自身

回答者自身の職業は「(a) 企業・官公庁の正社員・職員」(32.5%) が最も高く、次いで「(b) パート・アルバイト専業」(19.3%)、「(h) 無職」(16.0%) となっています。

性別にみると、男性は正社員や自営業などフルタイムで働く割合が高く、女性はパート・アルバイト専業や家事専業と回答した割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「(a) 企業・官公庁の正社員・職員」が7.7ポイント低下し、「(h) 無職」が6.6ポイント増加しています。



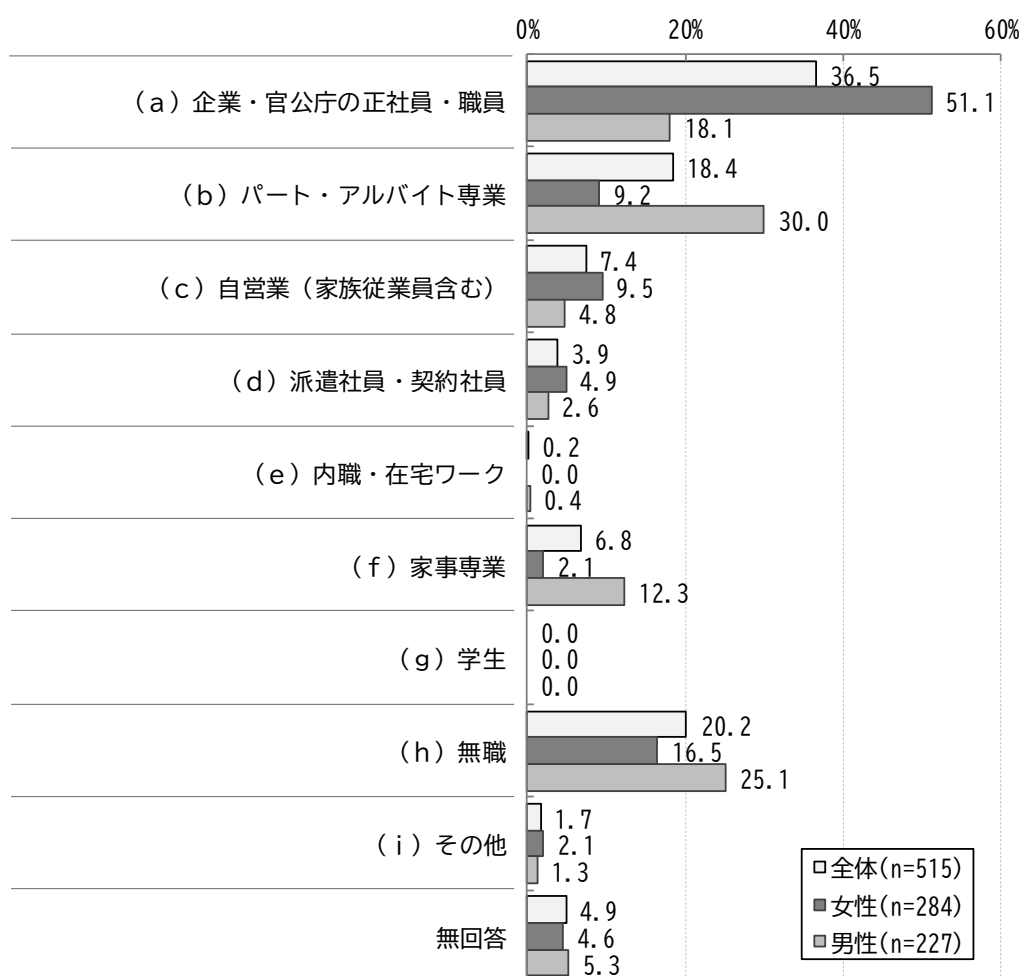
	(a) 企業・官公庁の正社員・職員	(b) パート・アルバイト専業	(c) 自営業(家族従業員含む)	(d) 派遣社員・契約社員	(e) 内職・在宅ワーク	(f) 家事専業	(g) 学生	(h) 無職	(i) その他	無回答
今回調査(n=818)	32.5	19.3	7.1	6.4	0.7	8.9	1.6	16.0	2.7	4.8
前回調査(n=521)	40.2	24.1	11.3	5.3	0.4	5.3	0.0	9.4	1.1	2.6

■ ②配偶者・パートナー

配偶者・パートナーは「(a) 企業・官公庁の正社員・職員」(36.5%)が最も高く、次いで「(h) 無職」(20.2%)、「(b) パート・アルバイト専業」(18.4%)となっています。

性別にみると、回答者自身と同様に、男性は正社員や自営業といったフルタイム・主業の割合が高く、女性はパート・アルバイトや家事専業といった非正規雇用あるいは家庭内役割を担う割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「(a) 企業・官公庁の正社員・職員」が6.2ポイント上昇しています。



	(a) 企業・官公庁の正社員・職員	(b) パート・アルバイト専業	(c) 自営業 (家族従業員含む)	(d) 派遣社員・契約社員	(e) 内職・在宅ワーク	(f) 家事専業	(g) 学生	(h) 無職	(i) その他	無回答
今回調査(n=515)	36.5	18.4	7.4	3.9	0.2	6.8	0.0	20.2	1.7	4.9
前回調査(n=521)	30.3	21.1	7.3	4.4	0.4	9.6	1.7	20.3	2.7	1.2

(5) 勤務先の地区

【F 4 の①あなた自身の職業で（勤め先（事業所や職場）がある）を選択した方】

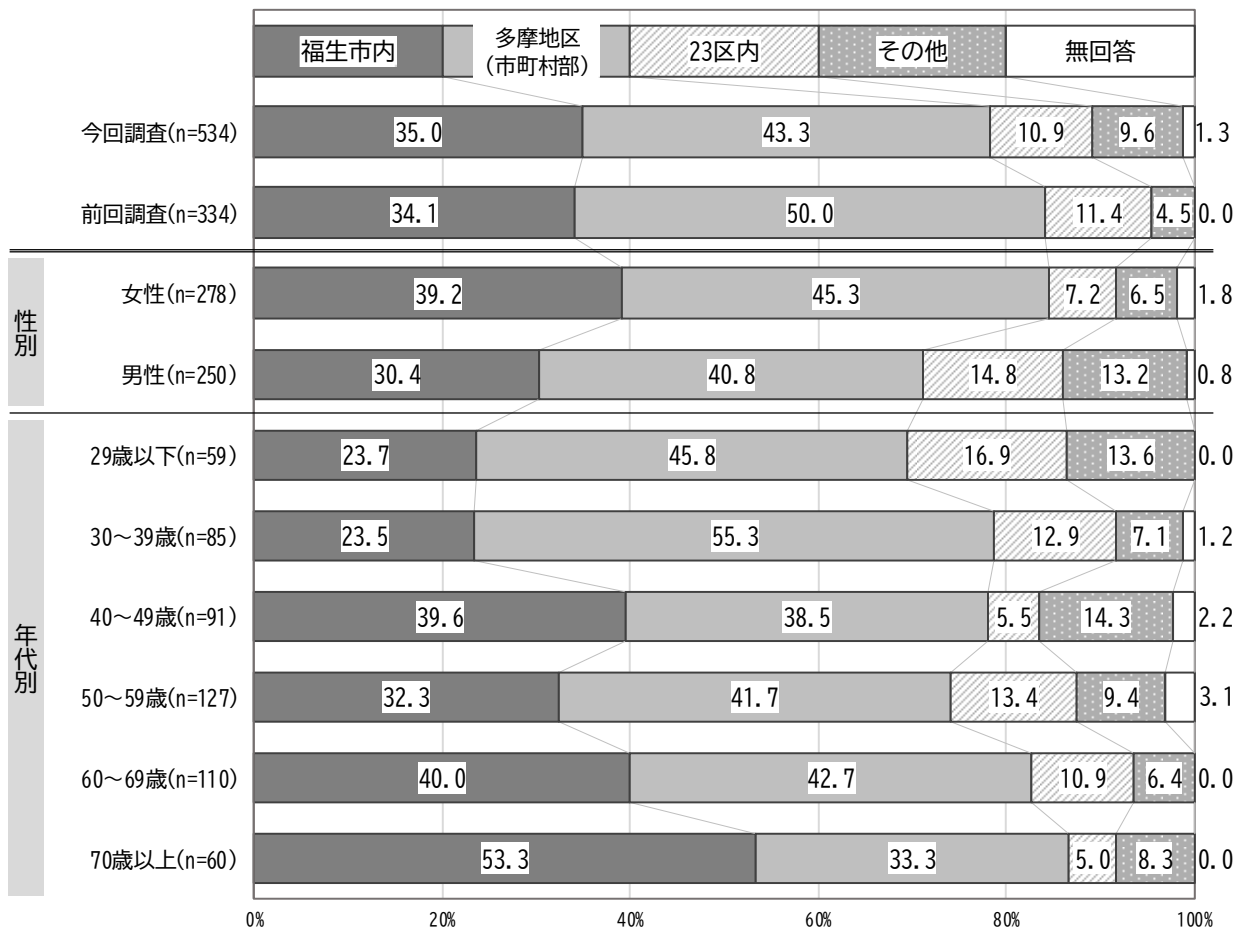
F 4-1 あなたの主な勤務先の所在地をお答えください。（○は1つ）

勤務先の地区について、「多摩地区(市町村部)」(43.3%)が最も高く、次いで「福生市内」(35.0%)、「23区内」(10.9%)となっています。

性別にみると、「福生市内」と回答した割合は女性(39.2%)が男性(30.4%)を上回っています。一方、「23区内」については男性(14.8%)が女性(7.2%)の2倍以上となっており、男性の方が遠方へ通勤している傾向がみられます。

年代別にみると、「福生市内」の割合は70歳以上が全年代で最も高くなっています。また、30～39歳では「多摩地区(市町村部)」が他の年代に比べて高くなっています。

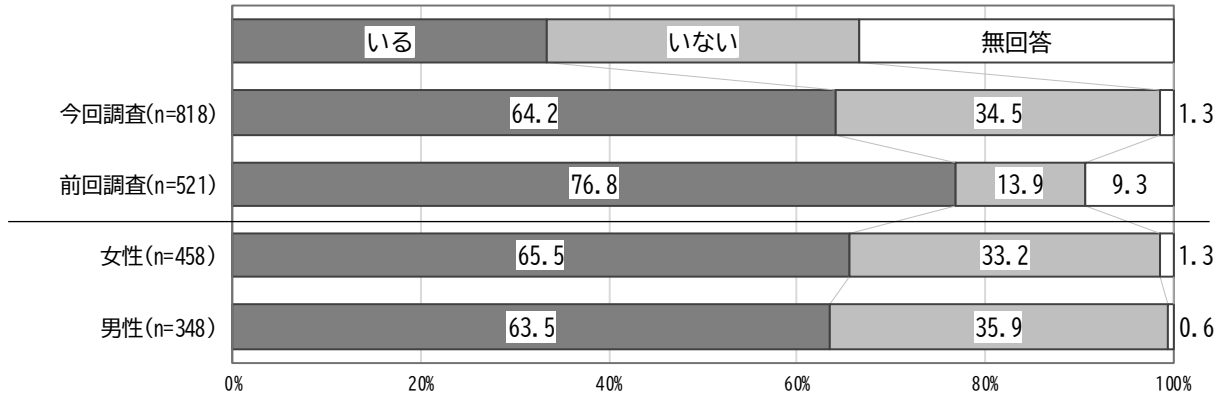
前回調査と比較すると、「多摩地区(市町村部)」は6.7ポイント低下しています。



(6) 子どもの有無

F 5 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。同居・別居は問いません。(○は1つ)

子どもの有無について、「いる」(64.2%)、「いない」(34.5%)となっています。
前回調査と比較すると、「いない」は20.6ポイント上昇しています。

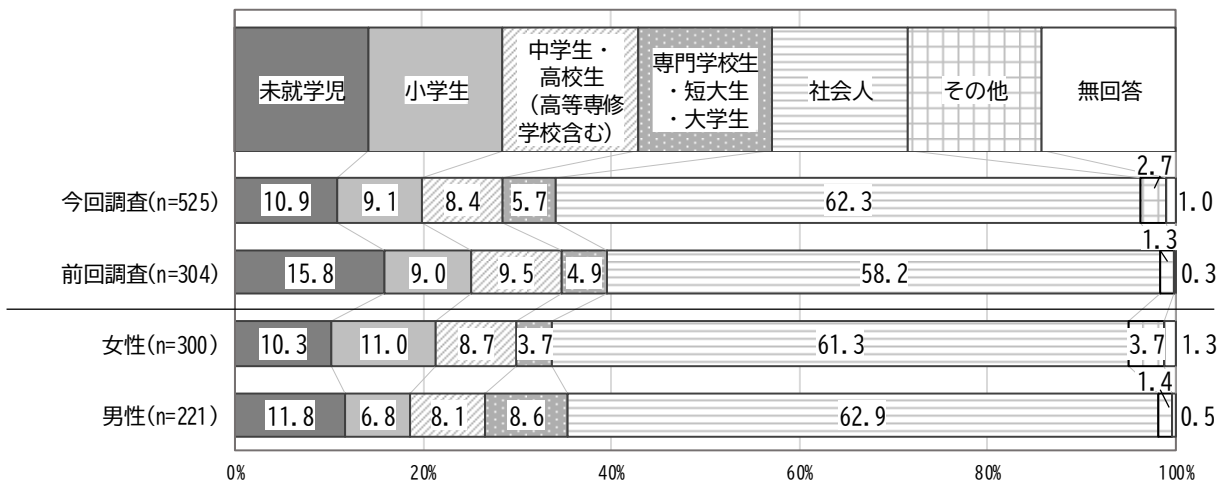


(7) 最年少の子どもの年代

【F 5で(お子さんがいる)を選択した方】

F 5-1 一番年齢が下のお子さんはどれにあたりますか。(○は1つ)

最年少の子どもの年代について、「社会人」(62.3%)が最も高く、次いで「未就学児」(10.9%)、「小学生」(9.1%)となっています。
前回調査と比較すると、「未就学児」は4.9ポイント低下しています。



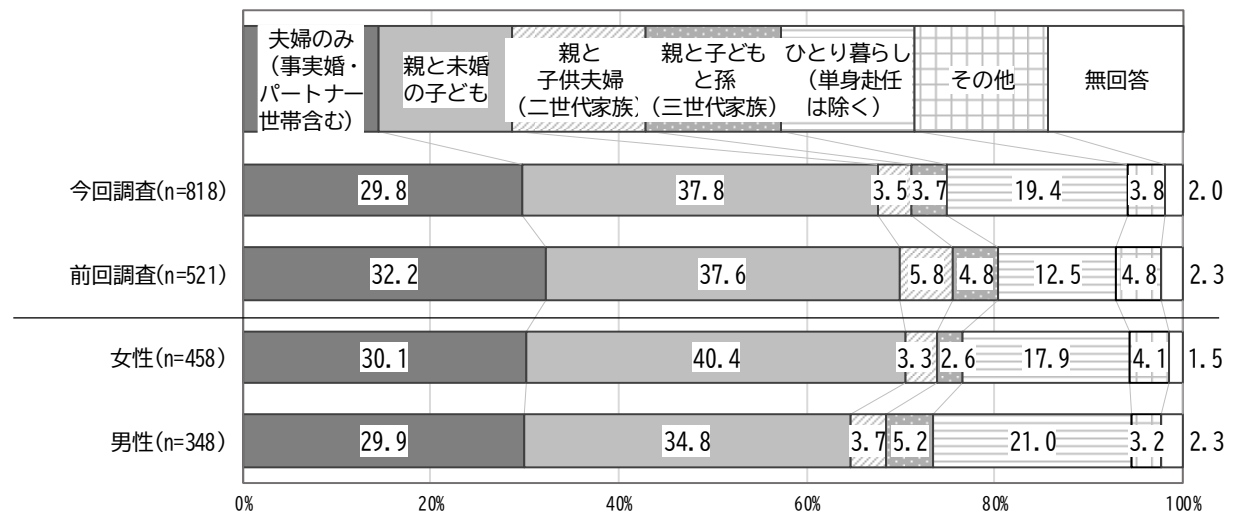
(8) 家族構成

F 6 現在のあなたの家族構成をお答えください。(○は1つ)

家族構成について、「親と未婚の子ども」(37.8%) が最も高く、次いで「夫婦のみ(事実婚・パートナー世帯含む)」(29.8%)、「ひとり暮らし(単身赴任は除く)」(19.4%) となっています。

性別にみると、「親と未婚の子ども」と回答した割合は女性(40.4%)が男性(34.8%)を5.6ポイント上回っています。

前回調査と比較すると、「ひとり暮らし」は6.9ポイント上昇しており、単身世帯が増加している傾向がみられます。



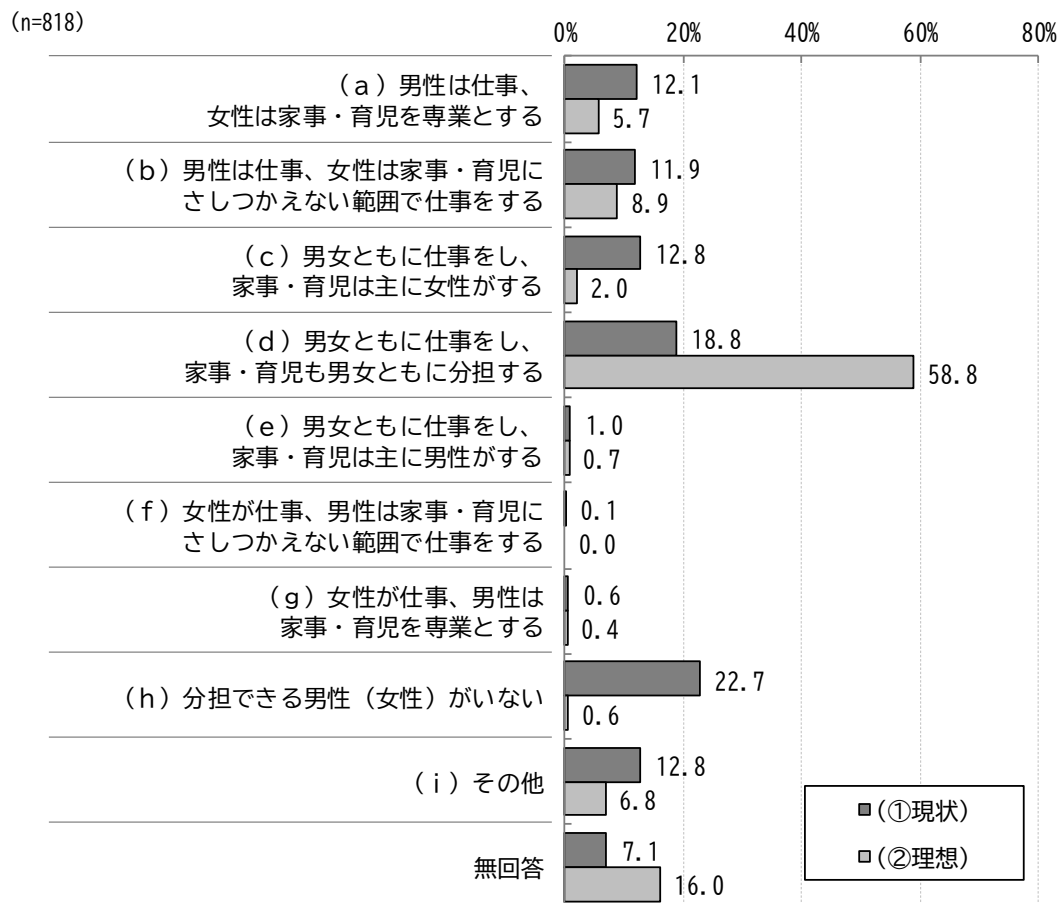
2 家庭における男女の役割分担について

(9) 男女の役割分担（現状と理想）

問1 家庭における男女の役割分担について、①あなたの現状 と ②どうあるべきと考えるか（理想）をお答えください。（①と②それぞれ〇は1つ）

男女の役割分担（現状と理想）について、①現状では、「(h) 分担できる男性（女性）がない」（22.7%）が最も高く、次いで「(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する」（18.8%）となっています。②理想では、「(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する」（58.8%）が最も高く、次いで「(b) 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」（8.9%）となっています。

②理想として「(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する」が高いものの、①現状では40ポイントの差があります。

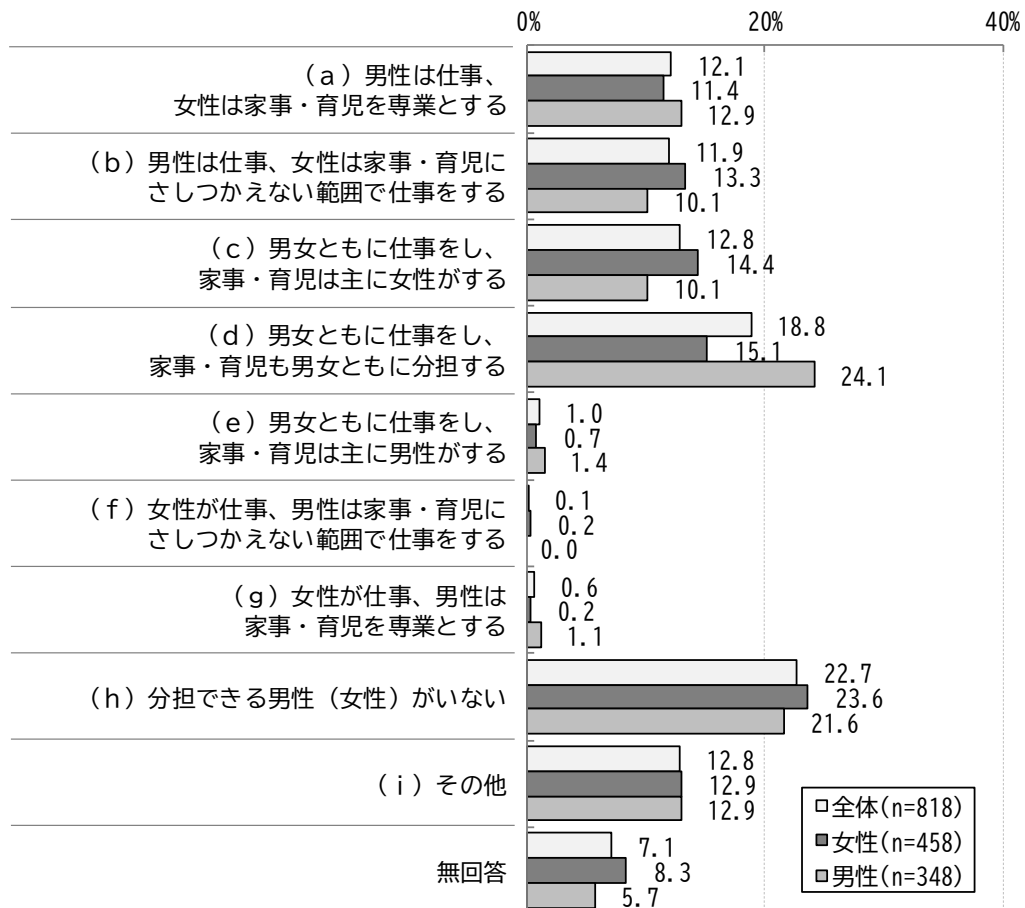


■ ①現状

①現実の役割分担について、性別にみると、女性の方が家事・育児を担っていると認識している割合が高く、男女間で理想と現状のギャップに対する受け止め方に差がみられます。

年代別にみると、49歳以下では「(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する」、50～59歳では「(c) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女性がする」、60歳以上では、「(h) 分担できる男性(女性)がいない」が最も多くなっています。

前回調査と比較すると、「(h) 分担できる男性(女性)がいない」が6.8ポイント、「(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する」が6.3ポイント上昇しています。



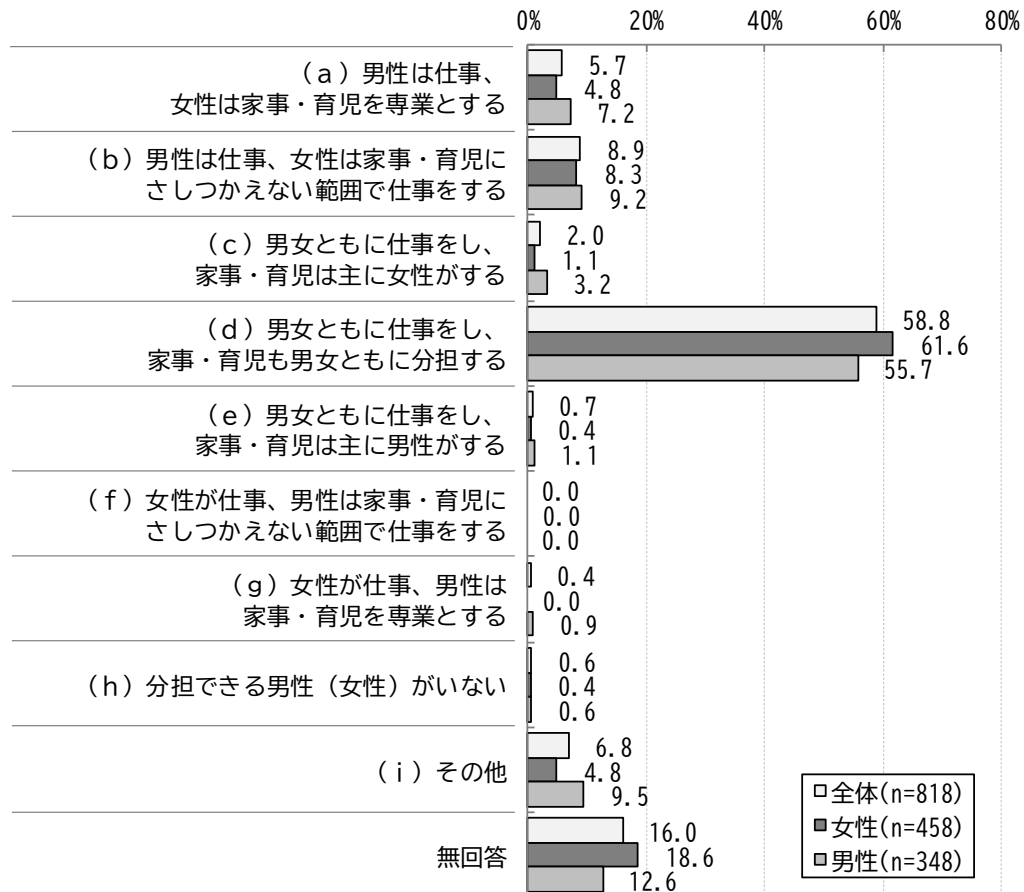
	(a) 男性は仕事、女性は家事・育児を専業とする	(b) 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	(c) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女性がする	(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する	(e) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に男性がする	(f) 女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	(g) 女性が仕事、男性は家事・育児を専業とする	(h) 分担できる男性(女性)がいない	(i) その他	無回答
今回調査(n=818)	12.1	11.9	12.8	18.8	1.0	0.1	0.6	22.7	12.8	7.1
前回調査(n=521)	16.9	15.0	14.4	12.5	0.6	0.4	0.4	15.9	10.6	13.4
女性										
今回(n=458)	11.4	13.3	14.4	15.1	0.7	0.2	0.2	23.6	12.9	8.3
前回(n=267)	15.4	13.1	18.4	12.4	0.7	0.7	0.7	16.5	10.5	11.6
男性										
今回(n=348)	12.9	10.1	10.1	24.1	1.4	0.0	1.1	21.6	12.9	5.7
前回(n=213)	18.8	17.4	10.8	12.2	0.5	0.0	0.0	16.0	9.9	14.6
29歳以下(n=79)	5.1	3.8	11.4	31.6	1.3	0.0	1.3	27.8	12.7	5.1
30～39歳(n=93)	7.5	16.1	11.8	26.9	4.3	0.0	0.0	25.8	6.5	1.1
40～49歳(n=112)	13.4	17.9	13.4	25.0	0.9	0.0	1.8	23.2	2.7	1.8
50～59歳(n=162)	16.7	13.0	22.2	19.8	0.0	0.0	0.0	21.6	4.3	2.5
60～69歳(n=169)	11.2	12.4	14.2	15.4	0.6	0.0	0.6	23.1	11.8	10.7
70歳以上(n=195)	13.3	8.7	4.6	8.7	0.5	0.5	0.5	19.0	29.2	14.9

■ ②理想

②理想の役割分担について性別にみると、男女ともに平等志向が高く、「(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する」が最も高くなっています。

年代別にみると、いずれの年代も「(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する」が高くなっています。

前回調査と比較すると、「(b) 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」が7.6ポイント低下しています。



	(a) 男性は仕事、女性は家事・育児を専業とする	(b) 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	(c) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女性がする	(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する	(e) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に男性がする	(f) 女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	(g) 女性が仕事、男性は家事・育児を専業とする	(h) 分担できる男性(女性)がいない	(i) その他	無回答
今回調査(n=818)	5.7	8.9	2.0	58.8	0.7	0.0	0.4	0.6	6.8	16.0
前回調査(n=521)	4.6	16.5	0.8	53.9	0.4	0.4	0.2	-	4.2	19.0
女性										
今回(n=458)	4.8	8.3	1.1	61.6	0.4	0.0	0.0	0.4	4.8	18.6
前回(n=267)	5.6	15.4	0.0	59.9	0.4	0.4	0.0	-	2.2	16.1
男性										
今回(n=348)	7.2	9.2	3.2	55.7	1.1	0.0	0.9	0.6	9.5	12.6
前回(n=213)	3.3	20.7	1.9	46.9	0.5	0.5	0.5	-	6.1	19.7
29歳以下(n=79)	2.5	6.3	0.0	72.2	1.3	0.0	2.5	0.0	7.6	7.6
30~39歳(n=93)	4.3	11.8	2.2	62.4	2.2	0.0	0.0	3.2	6.5	7.5
40~49歳(n=112)	11.6	11.6	4.5	57.1	0.0	0.0	0.0	0.9	5.4	8.9
50~59歳(n=162)	5.6	13.0	1.2	69.1	0.0	0.0	0.6	0.6	3.7	6.2
60~69歳(n=169)	3.0	4.7	3.0	63.3	0.6	0.0	0.0	0.0	7.1	18.3
70歳以上(n=195)	7.2	7.7	1.0	40.5	1.0	0.0	0.0	0.0	10.3	32.3

■ 男女の役割分担（現状と理想のクロス集計）

以下の表では、家庭における男女の役割分担の理想ごとに、役割分担の現状がどのような状況になっているかを示しています。太枠の部分は理想と現状が一致していることを表しています。

「(a) 男性は仕事、女性は家事・育児を専業とする」を理想と回答した方では、理想と現状が一致している割合が 38.3%で最も高くなっています。

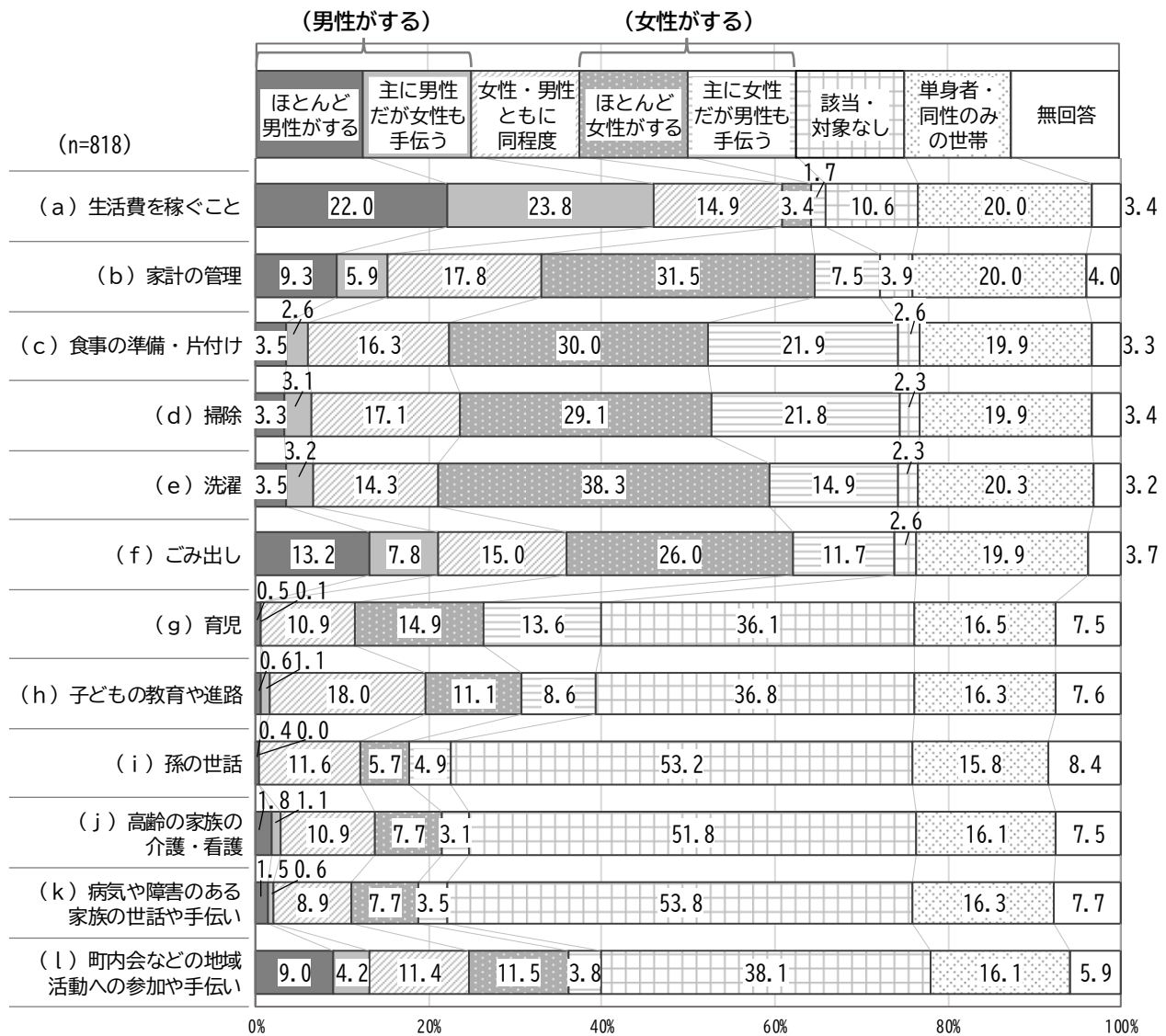
	n	①現状										
		(a) 男性は仕事、女性は家事・育児を専業とする	(b) 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	(c) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女性がする	(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する	(e) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に男性がする	(f) 女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	(g) 女性が仕事、男性は家事・育児を専業とする	(h) 分担できる男性(女性)がいない	(i) その他	無回答	
②理想	(a) 男性は仕事、女性は家事・育児を専業とする	47	38.3	12.8	8.5	10.6	0.0	0.0	0.0	21.3	8.5	0.0
	(b) 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	73	21.9	30.1	5.5	12.3	0.0	0.0	0.0	17.8	9.6	2.7
	(c) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女性がする	16	18.8	12.5	37.5	12.5	0.0	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0
	(d) 男女ともに仕事をし、家事・育児も男女ともに分担する	481	9.4	12.9	18.5	26.0	0.8	0.2	0.4	20.6	8.1	3.1
	(e) 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に男性がする	6	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	(f) 女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(g) 女性が仕事、男性は家事・育児を専業とする	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	(h) 分担できる男性(女性)がいない	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	(i) その他	56	8.9	3.6	1.8	8.9	0.0	0.0	0.0	14.3	60.7	1.8
	無回答	131	9.2	2.3	0.8	6.1	0.0	0.0	0.8	35.9	14.5	30.5

(10) 家庭生活における役割分担

問2 あなたは次のことを日常生活でどの程度行っていますか。(aからlそれぞれ○は1つ)

家庭生活における役割分担について、「女性・男性ともに同程度」の割合が高い項目は、「(h) 子どもの教育や進路」(18.0%)が最も高く、次いで「(b) 家計の管理」(17.8%)、「(d) 掃除」(17.1%)となっています。

また、「(a) 生活費を稼ぐこと」以外のすべての項目について、『女性がする』の割合が高くなっています。



※『男性がする』（「ほとんど男性がする」と「主に男性だが女性も手伝う」の合計）

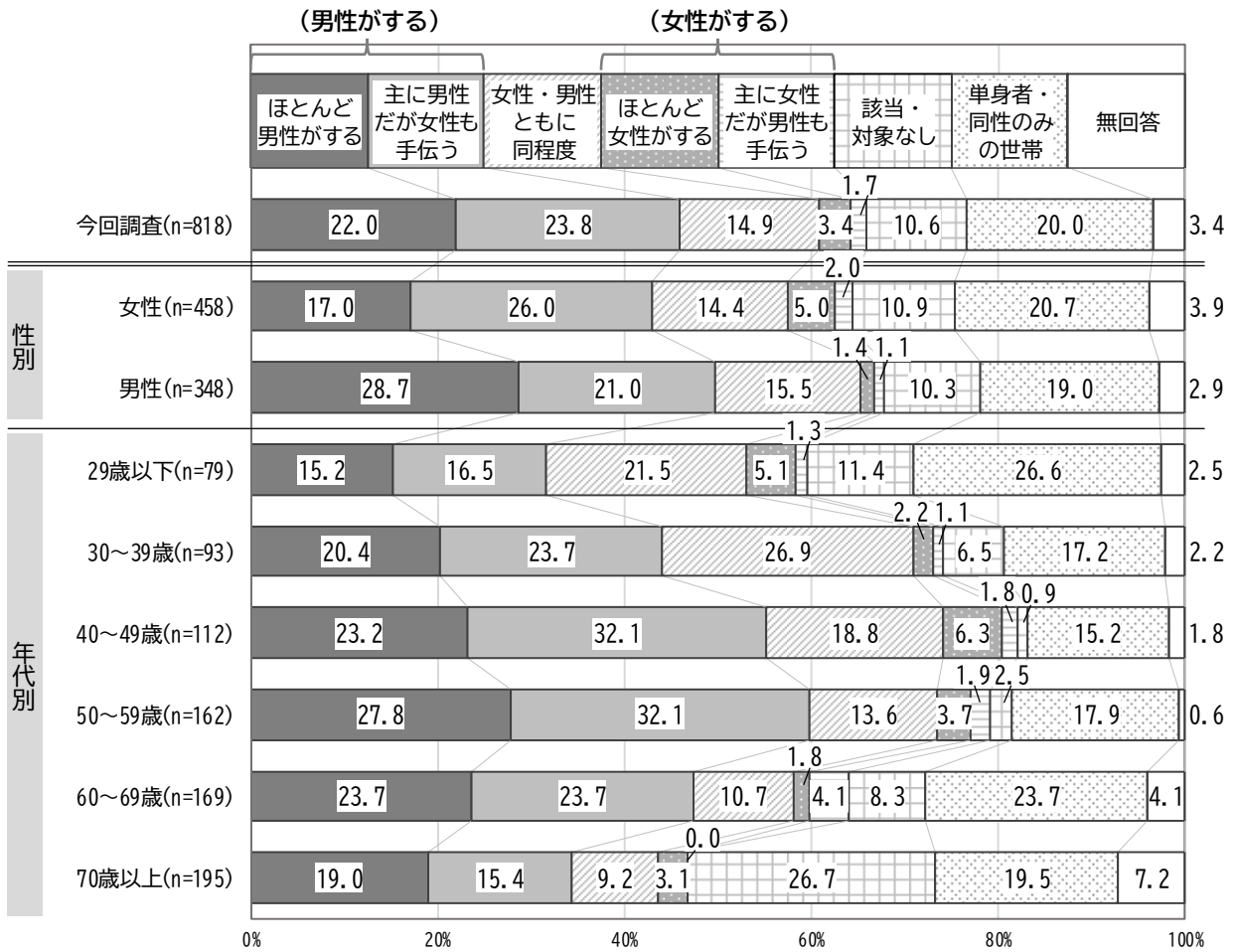
※『女性がする』（「ほとんど女性がする」と「主に女性だが男性も手伝う」の合計）

■ (a) 生活費を稼ぐこと

生活費を稼ぐことについて、『男性がする』(45.8%)が、『女性がする』(5.1%)を40.7ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が14.9%となっています。

性別にみると、男性の方が女性よりも『男性がする』と回答する割合が上回っています。

年代別にみると、すべての年代で『男性がする』が高くなっていますが、40～49歳、50～59歳でその割合が高くなっています。

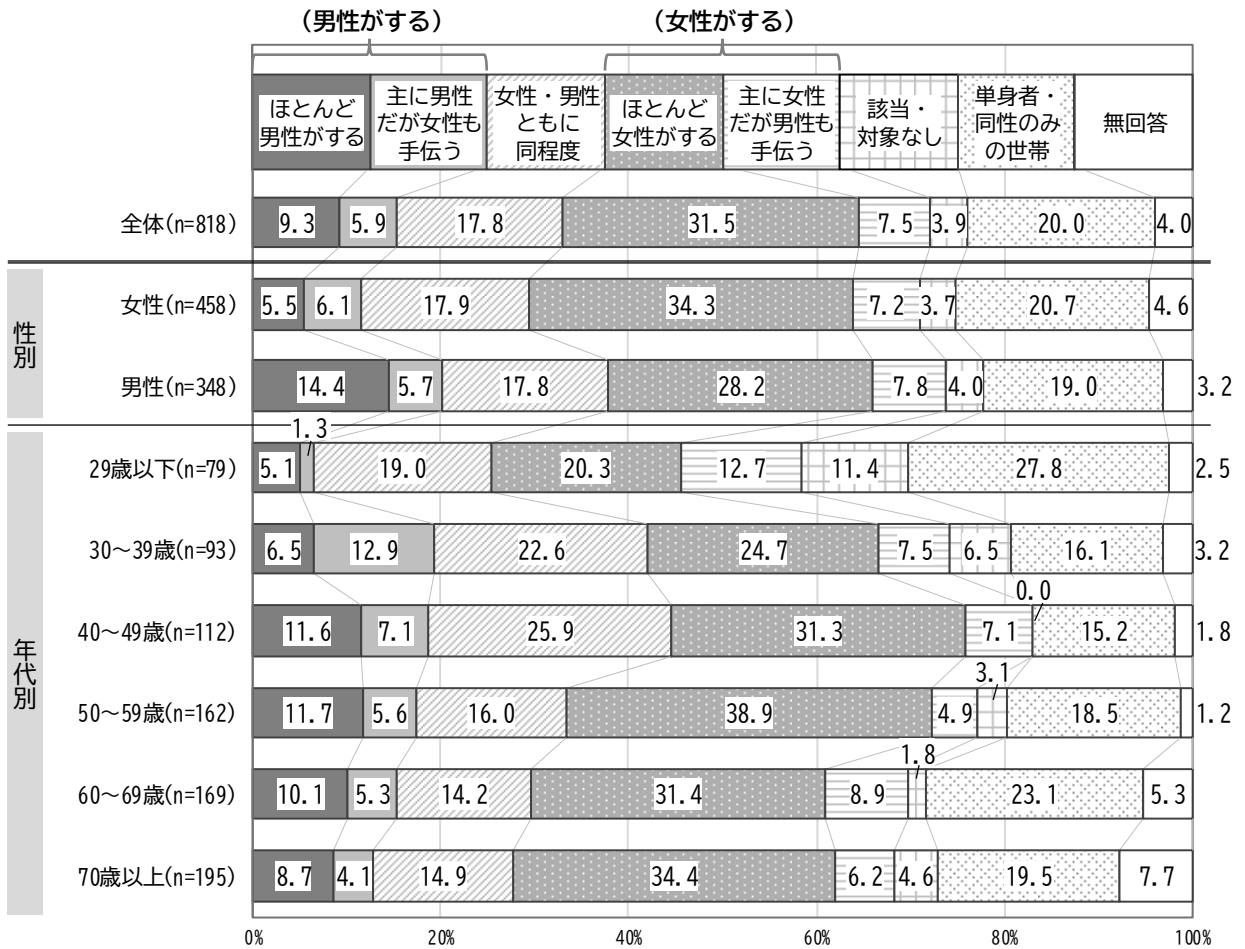


■ (b) 家計の管理

家計の管理について、『女性がする』(39.0%)が『男性がする』(15.2%)を23.8ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が17.8%となっています。

性別にみると、自分の性別側がより役割を担っていると認識する傾向があります。

年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高くなっていますが、40歳以上でその割合が高くなっています。

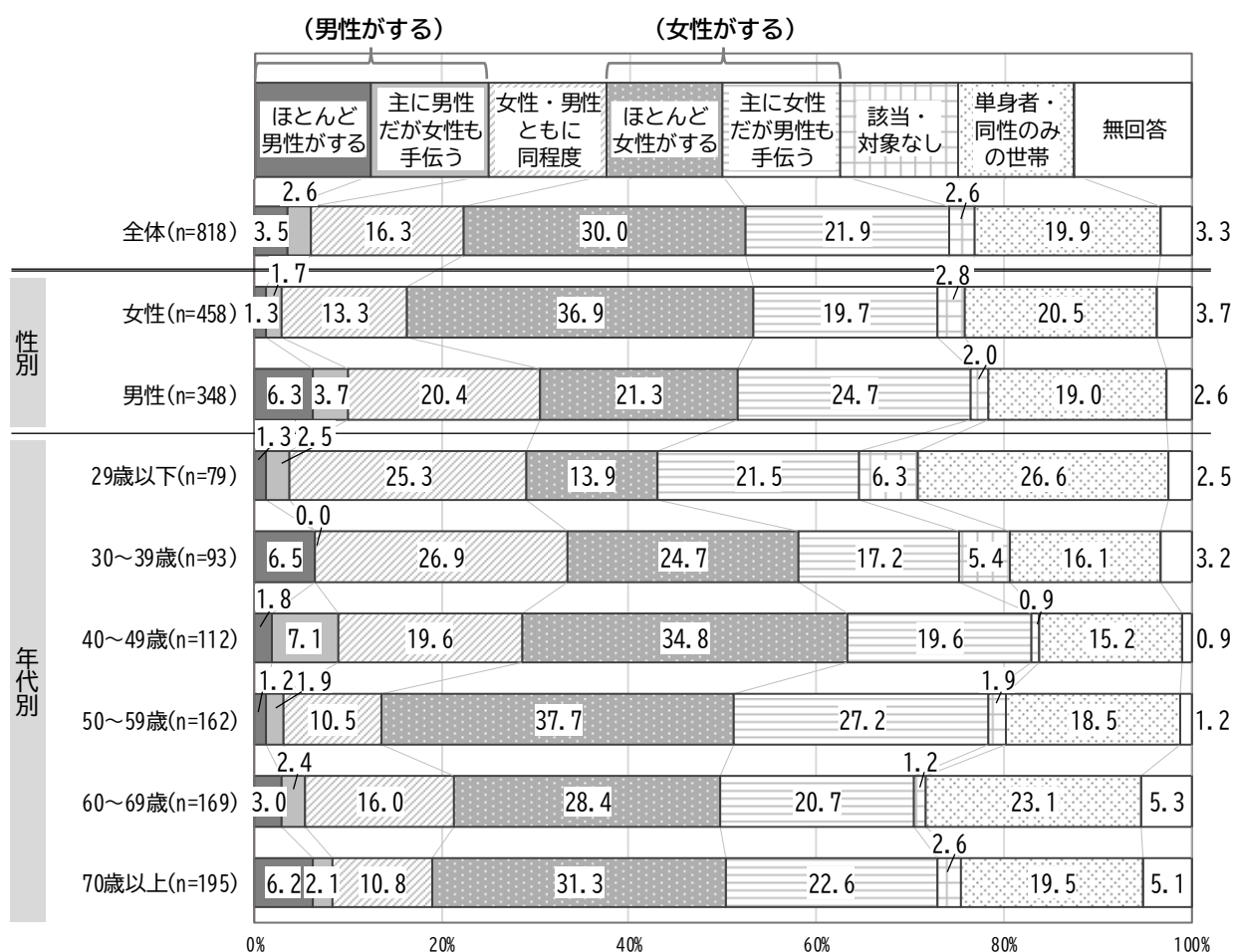


■ (c) 食事の準備・片付け

食事の準備・片付けについて、『女性がする』(51.9%)が『男性がする』(6.1%)を45.8ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が16.3%となっています。

性別にみると、男性の方が女性よりも「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高く、役割分担の認識に男女差がみられます。

年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高くなっていますが、50～59歳でその割合が高くなっています。若年層では「女性・男性ともに同程度」とする割合が高くなっています。

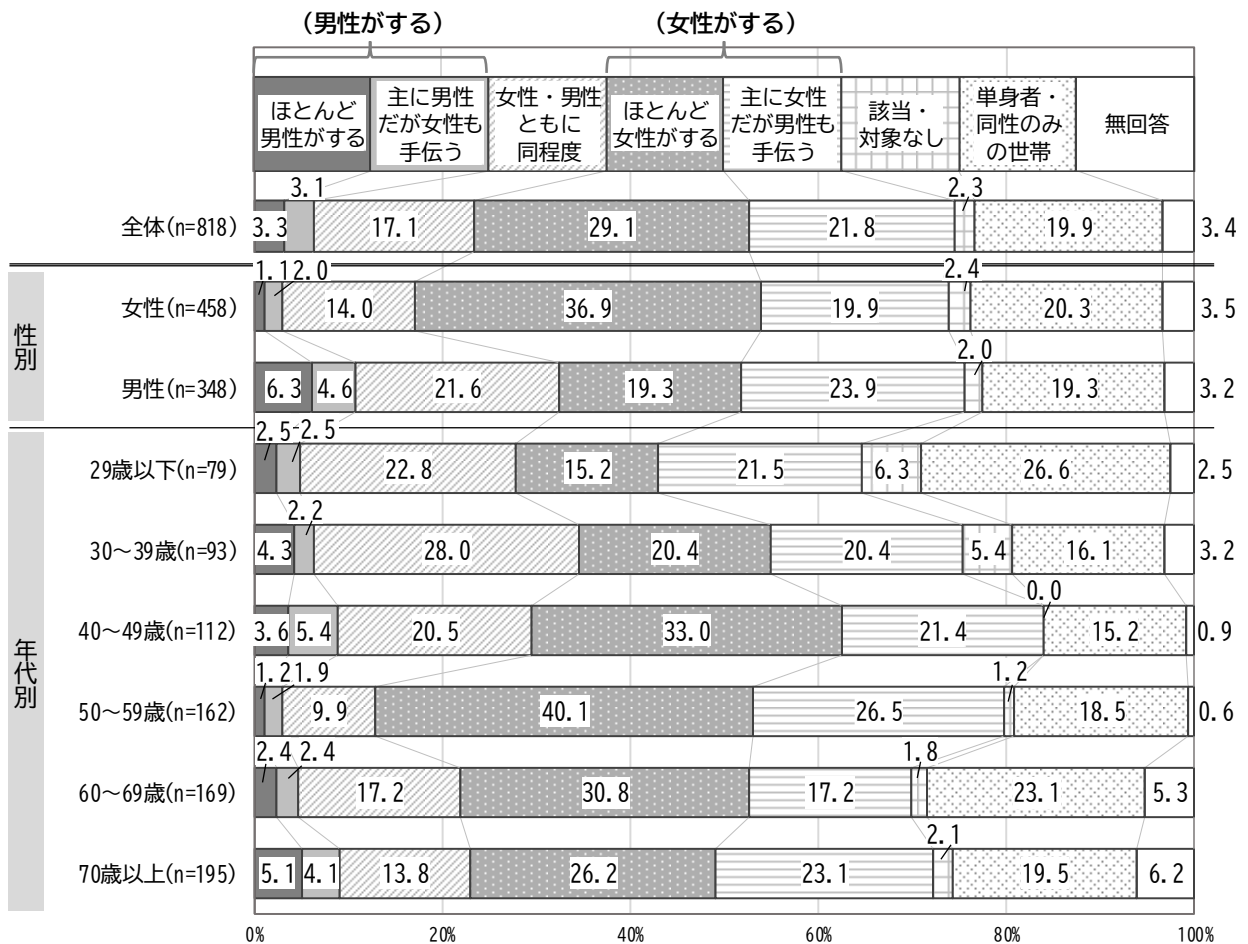


■ (d) 掃除

掃除について、『女性がする』(50.9%)が『男性がする』(6.4%)を44.5ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が17.1%となっています。

性別にみると、男性の方が女性よりも「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高く、役割分担の認識に男女差がみられます。

年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高くなっていますが、50～59歳でその割合が高くなっています。若年層では「女性・男性ともに同程度」とする割合が高くなっています。

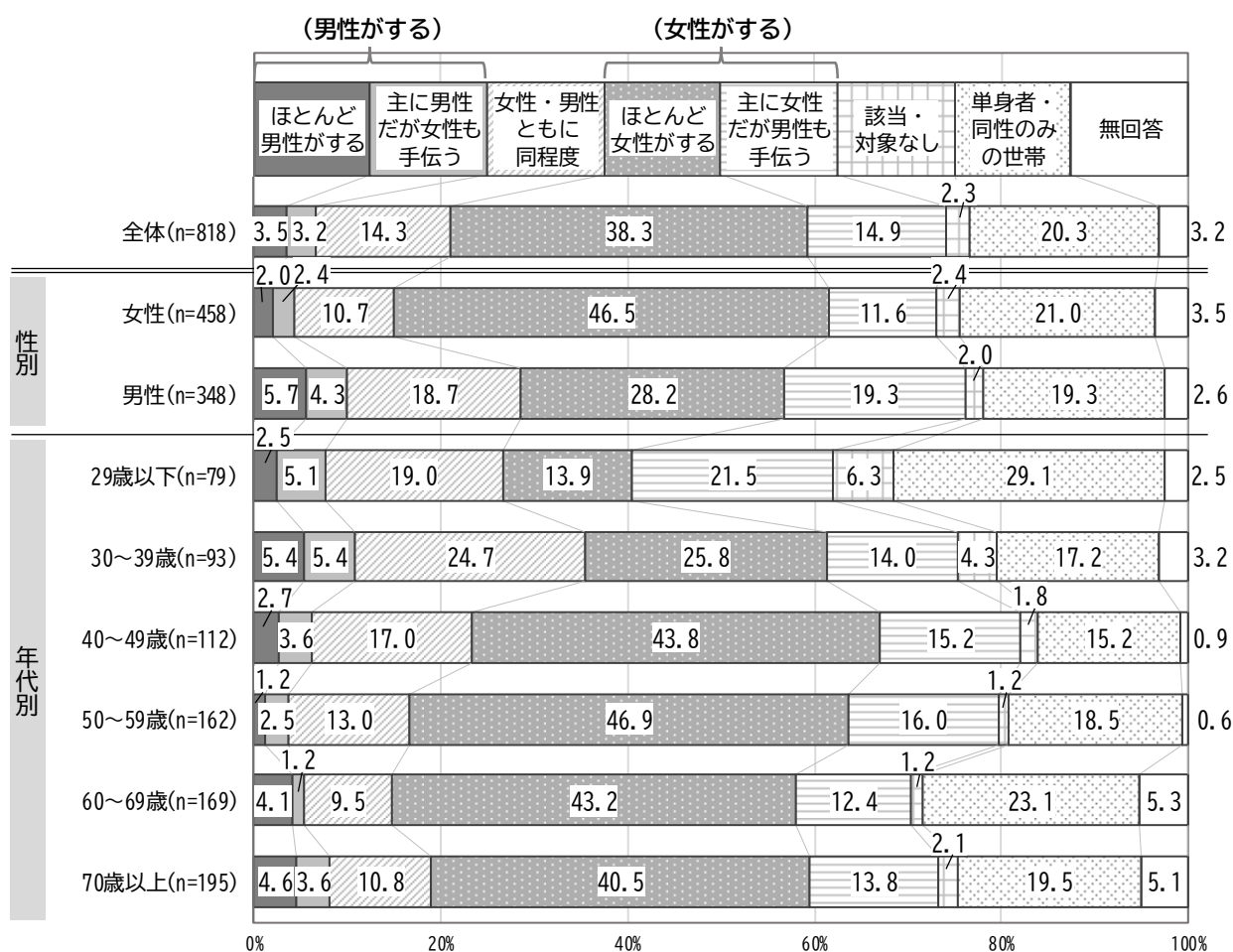


■ (e) 洗濯

洗濯について、『女性がする』(53.2%)が『男性がする』(6.7%)を46.5ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が14.3%となっています。

性別にみると、男性の方が女性よりも「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高く、役割分担の認識に男女差がみられます。

年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高くなっていますが、40歳以上でその割合が高くなっています。若年層では「女性・男性ともに同程度」とする割合が高くなっています。

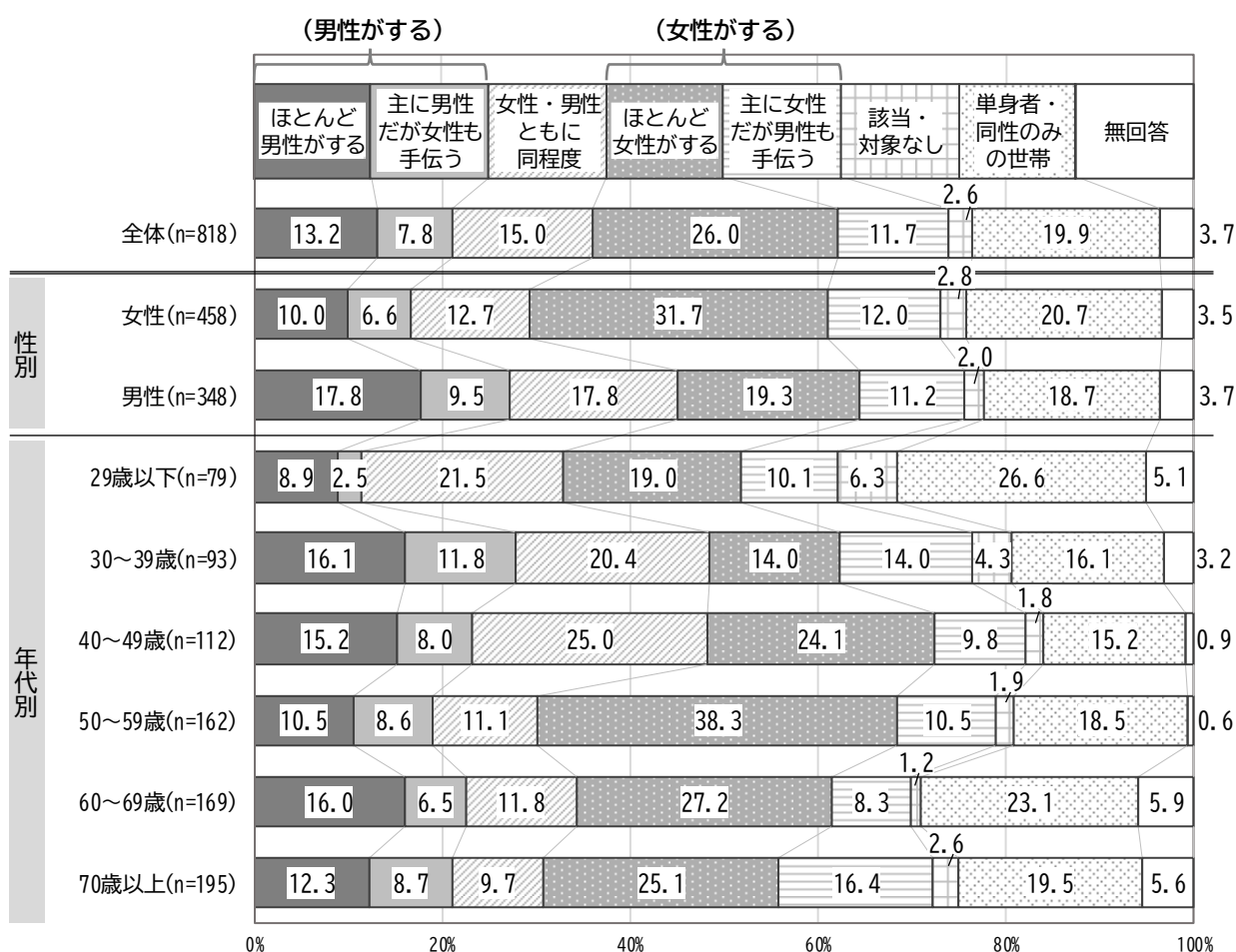


■ (f) ごみ出し

ごみ出しについて、『女性がする』(37.7%)が『男性がする』(21.0%)を16.7ポイント上回っており、他の家事項目に比べると男女差が低くなっています。「女性・男性ともに同程度」が15.0%となっています。

性別にみると、他の項目に比べて男女差は小さいものの、男性の方が「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高くなっていますが、50～59歳でその割合が高くなっています。49歳以下では「女性・男性ともに同程度」とする割合が高くなっています。

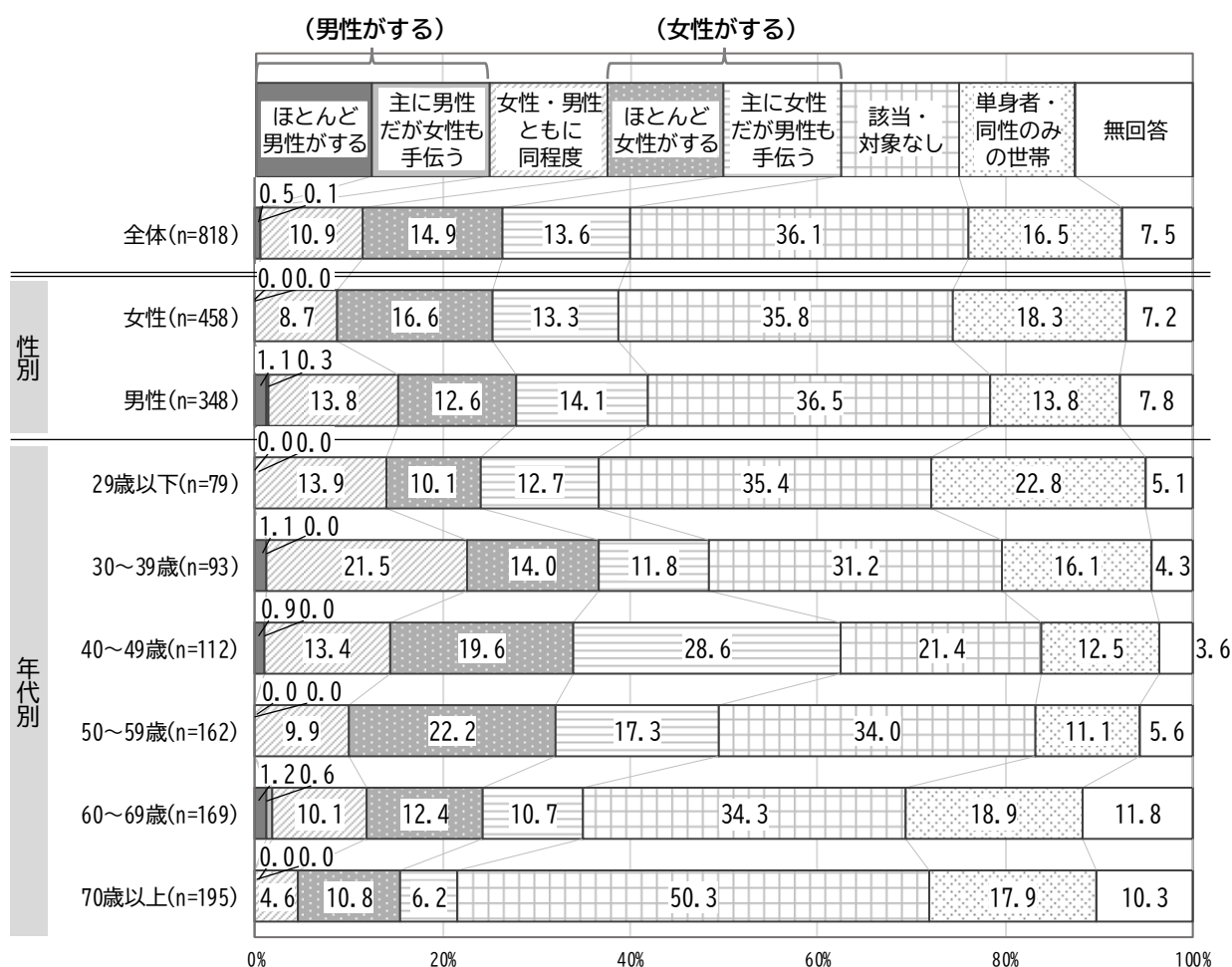


■ (g) 育児

育児について、『女性がする』(28.5%)が『男性がする』(0.6%)を27.9ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が10.9%となっています。

性別にみると、男性の方が女性よりも「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高くなっていますが、40～49歳でその割合が特に高くなっているほか、「女性・男性ともに同程度」とする割合も他の家事項目に比べて高くなっています。また、30～39歳では「女性・男性ともに同程度」とする割合が高くなっています。

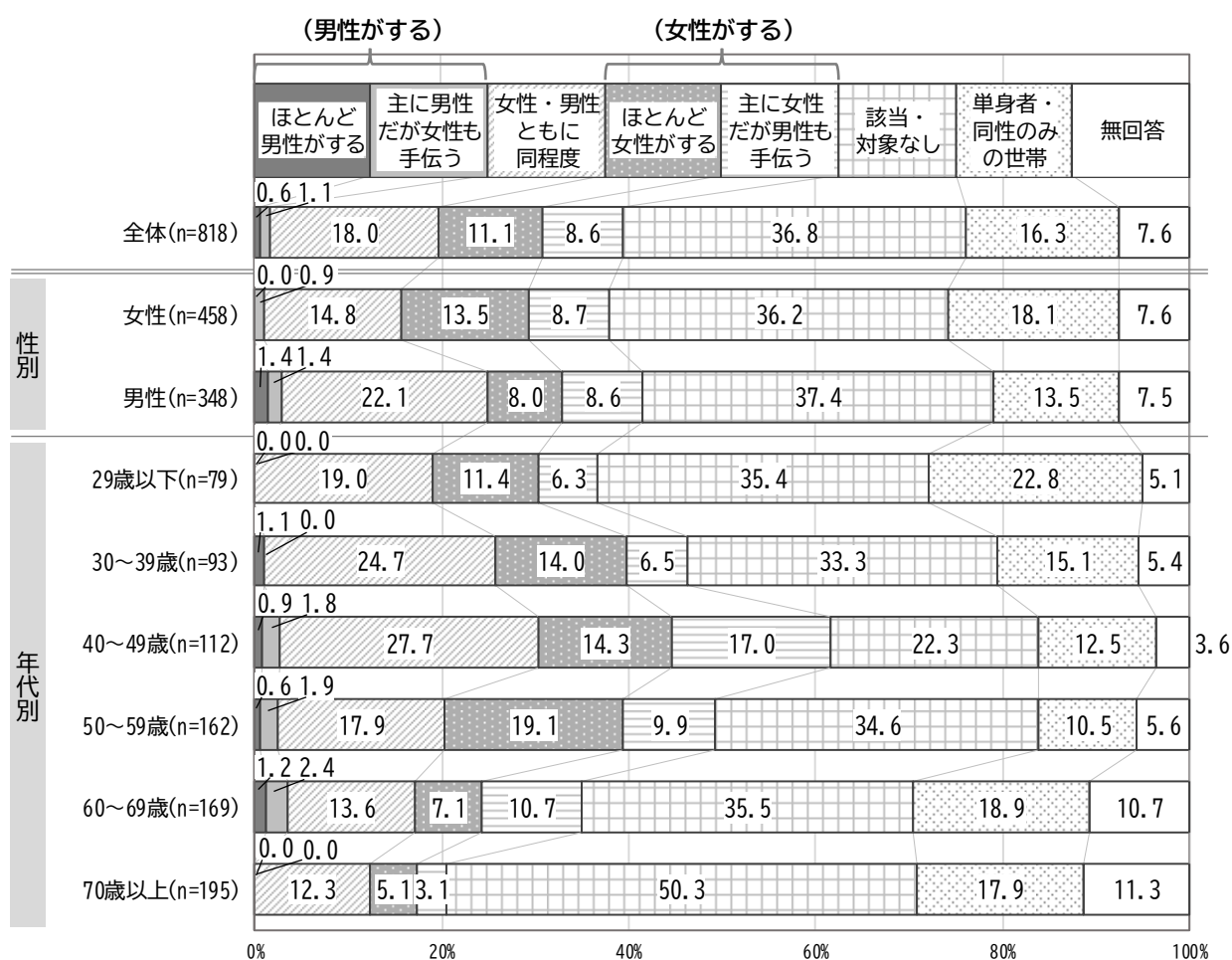


■ (h) 子どもの教育や進路

子どもの教育や進路について、『女性がする』(19.7%)が『男性がする』(1.7%)を18.0ポイント上回っていますが、「女性・男性ともに同程度」が18.0%と比較的高く、家事項目の中では男女で分担されています。

性別にみると、男性の方が女性よりも「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高く、役割分担の認識に男女差がみられます。

年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高くなっていますが、40～49歳でその割合が高くなっています。

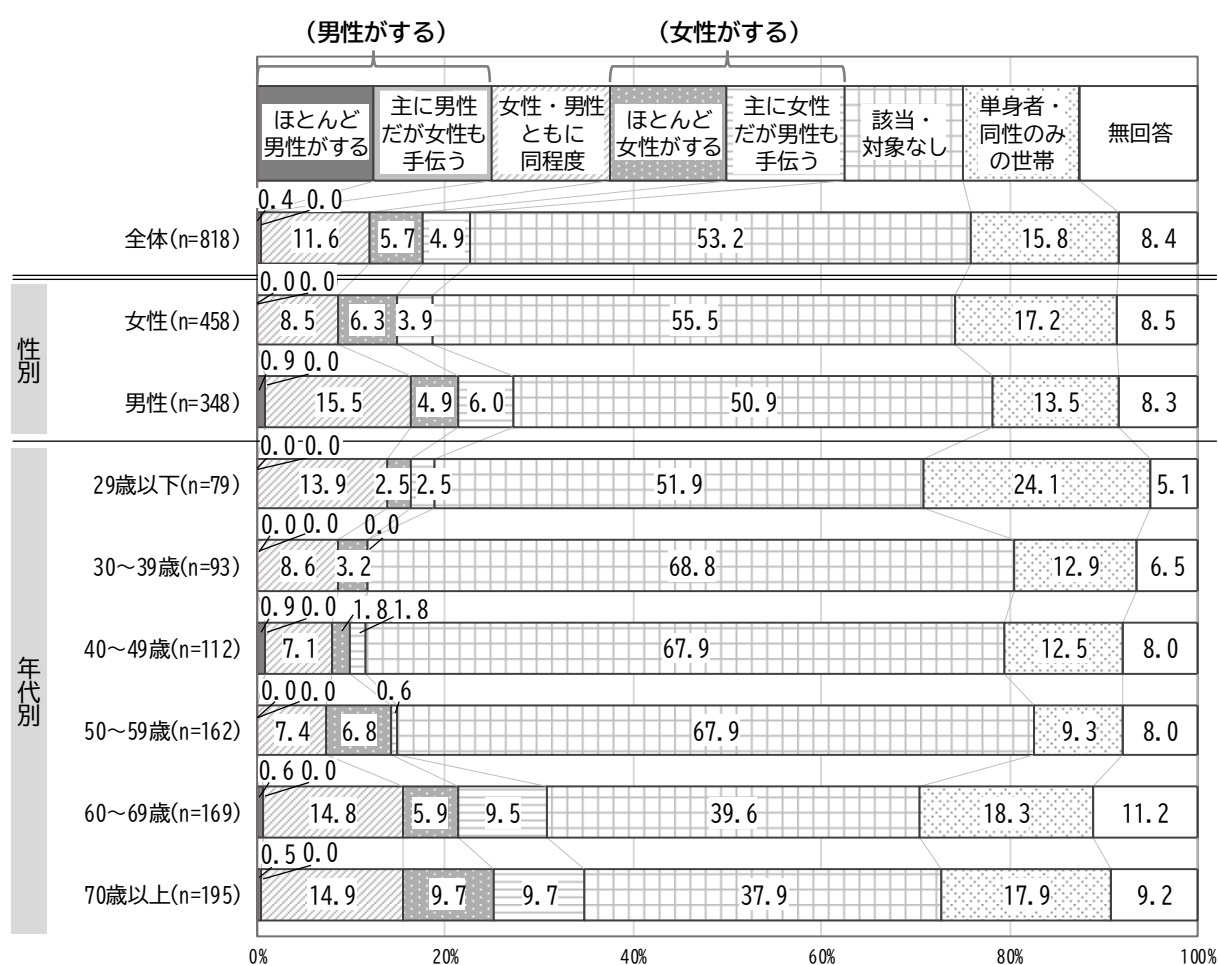


■ (i) 孫の世話

孫の世話について、『女性がする』(10.6%)が『男性がする』(0.4%)を10.2ポイント上回っていますが、「女性・男性ともに同程度」が11.6%と比較的高く、家事項目の中では男女で分担されています。

性別にみると、男性の方が女性よりも「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高くなっています。また、女性では「女性がする」、男性では「男性がする」と回答する割合も比較的高く、男女それぞれが自分の方が役割を担っていると認識する傾向がみられます。

年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高く、60歳以上でその割合が特に高いものの、「女性・男性ともに同程度」とする割合も高くなっています。

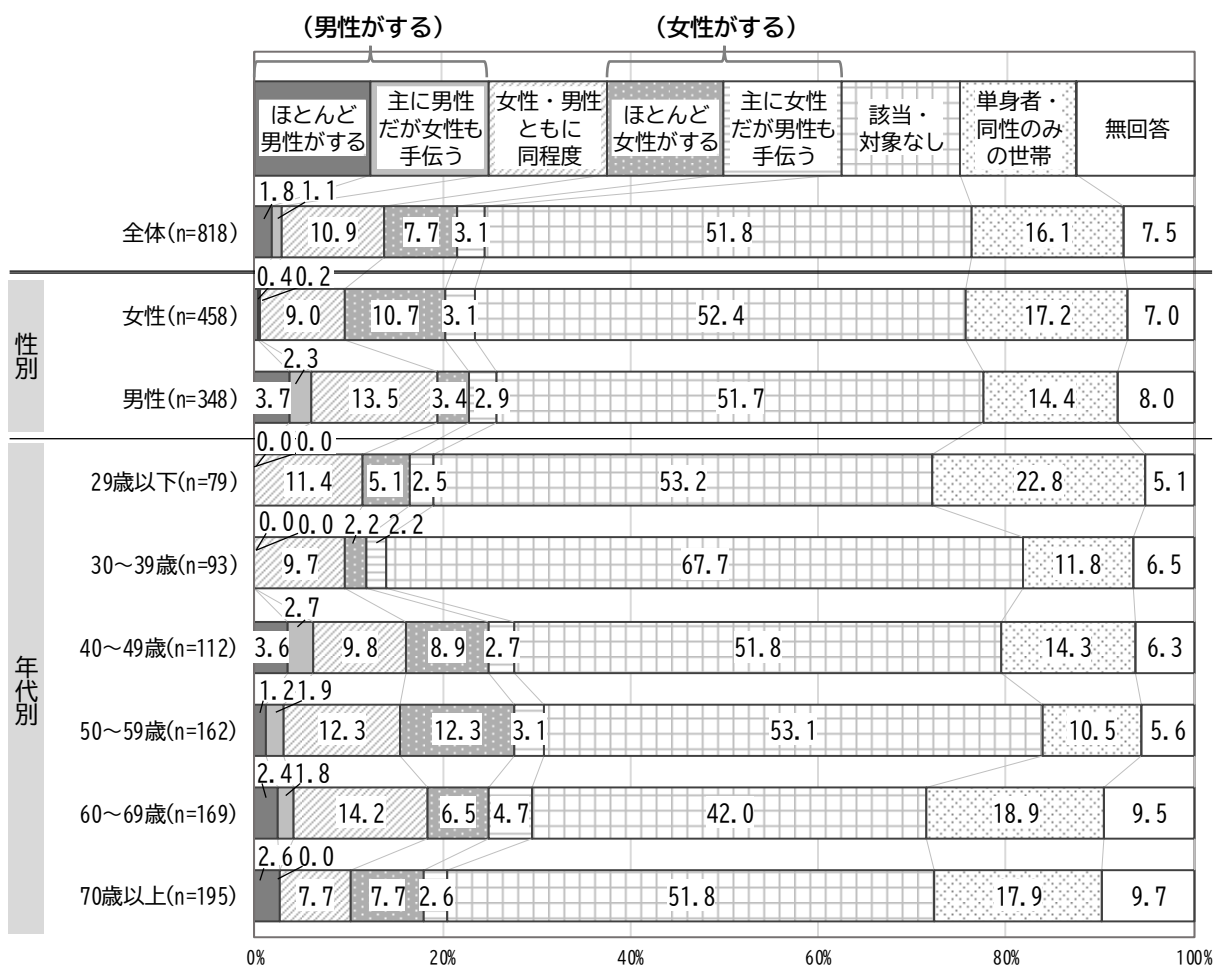


■ (j) 高齢の家族の介護・看護

高齢の家族の介護・看護について、『女性がする』(10.8%)が『男性がする』(2.9%)を7.9ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が10.9%と比較的高く、家事項目の中では男女で分担されています。

性別にみると、男性の方が女性よりも「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高くなっています。また、女性では「女性がする」、男性では「男性がする」と回答する割合も比較的高く、男女それぞれが自分の方が役割を担っていると認識する傾向がみられます。

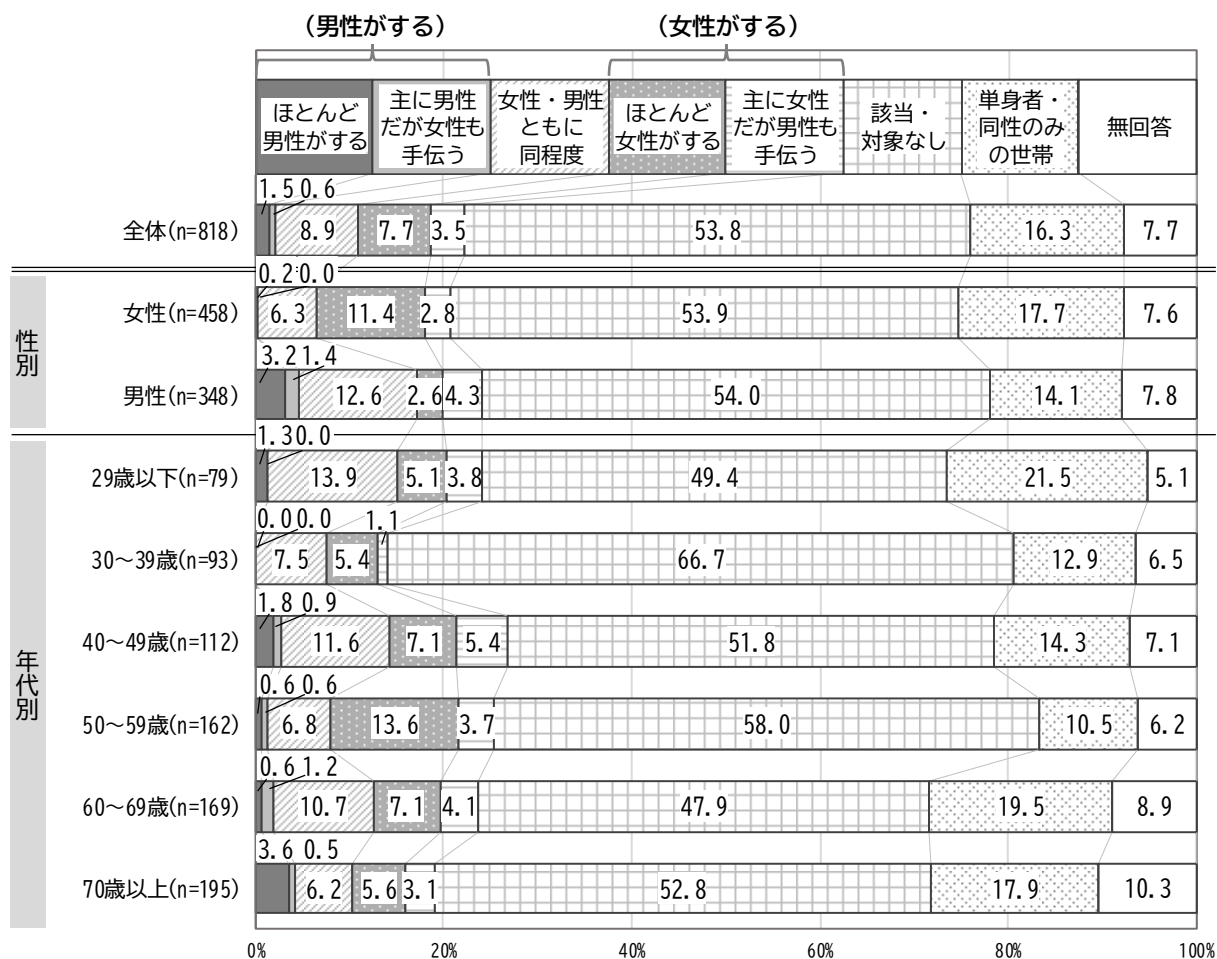
年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高く、50～59歳でその割合が特に高く、60～69歳では、「女性・男性ともに同程度」とする割合が高くなっています。



■ (k) 病気や障害のある家族の世話や手伝い

病気や障害のある家族の世話や手伝いについて、『女性がする』(11.2%)が『男性がする』(2.1%)を9.1ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が8.9%と比較的高く、家事項目の中では男女で分担されています。

性別にみると、男性の方が女性よりも「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高く、役割分担の認識に男女差がみられます。年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高く、50～59歳でその割合が高くなっています。

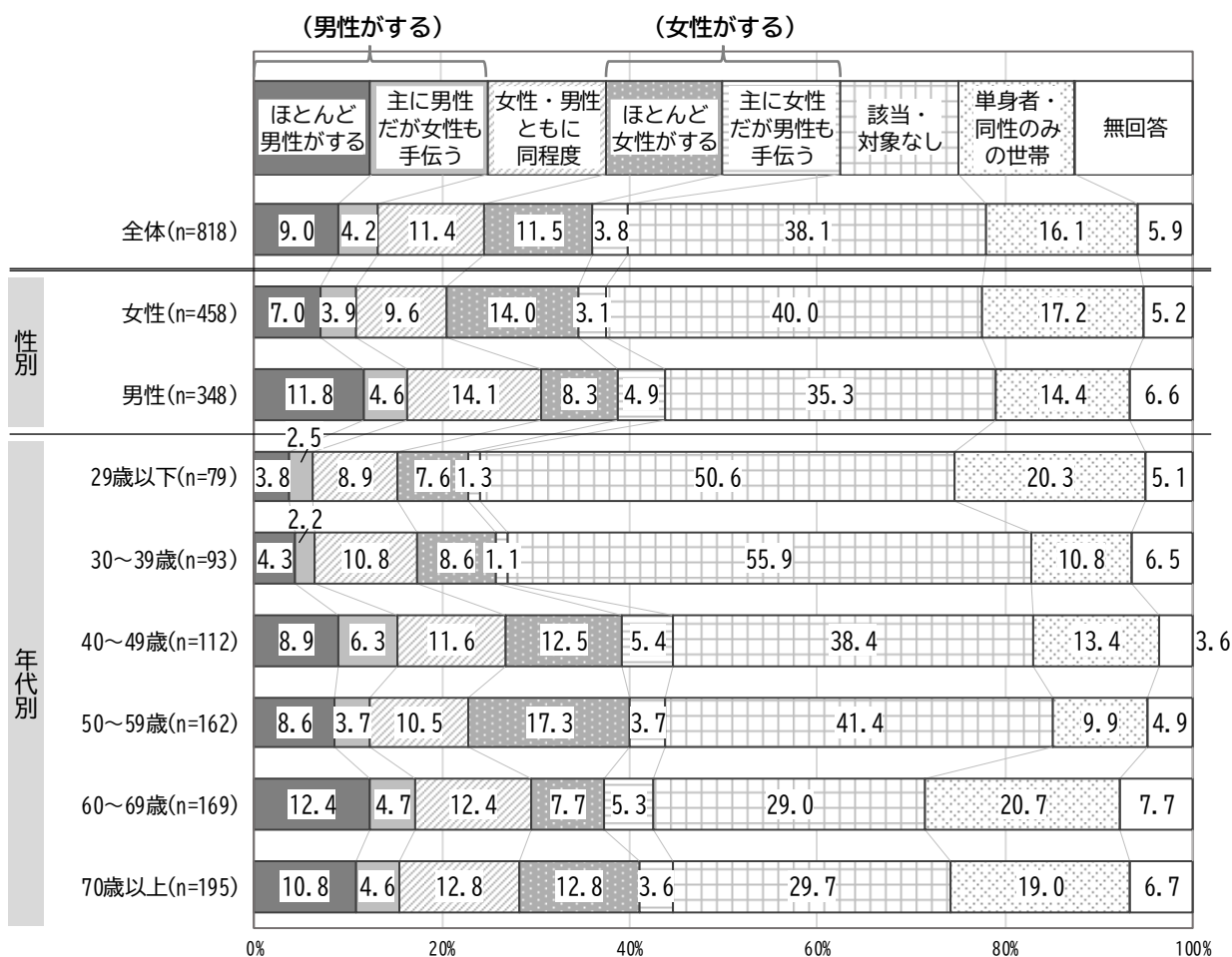


■ (1) 町内会などの地域活動への参加や手伝い

町内会などの地域活動への参加や手伝いについて、『女性がする』(15.3%)が『男性がする』(13.2%)を2.1ポイント上回っており、「女性・男性ともに同程度」が10.9%と比較的高く、家事項目の中では男女で分担されています。

性別にみると、男性の方が「女性・男性ともに同程度」と回答する割合が高く、自身の参加状況を女性よりも肯定的に捉える傾向があります。

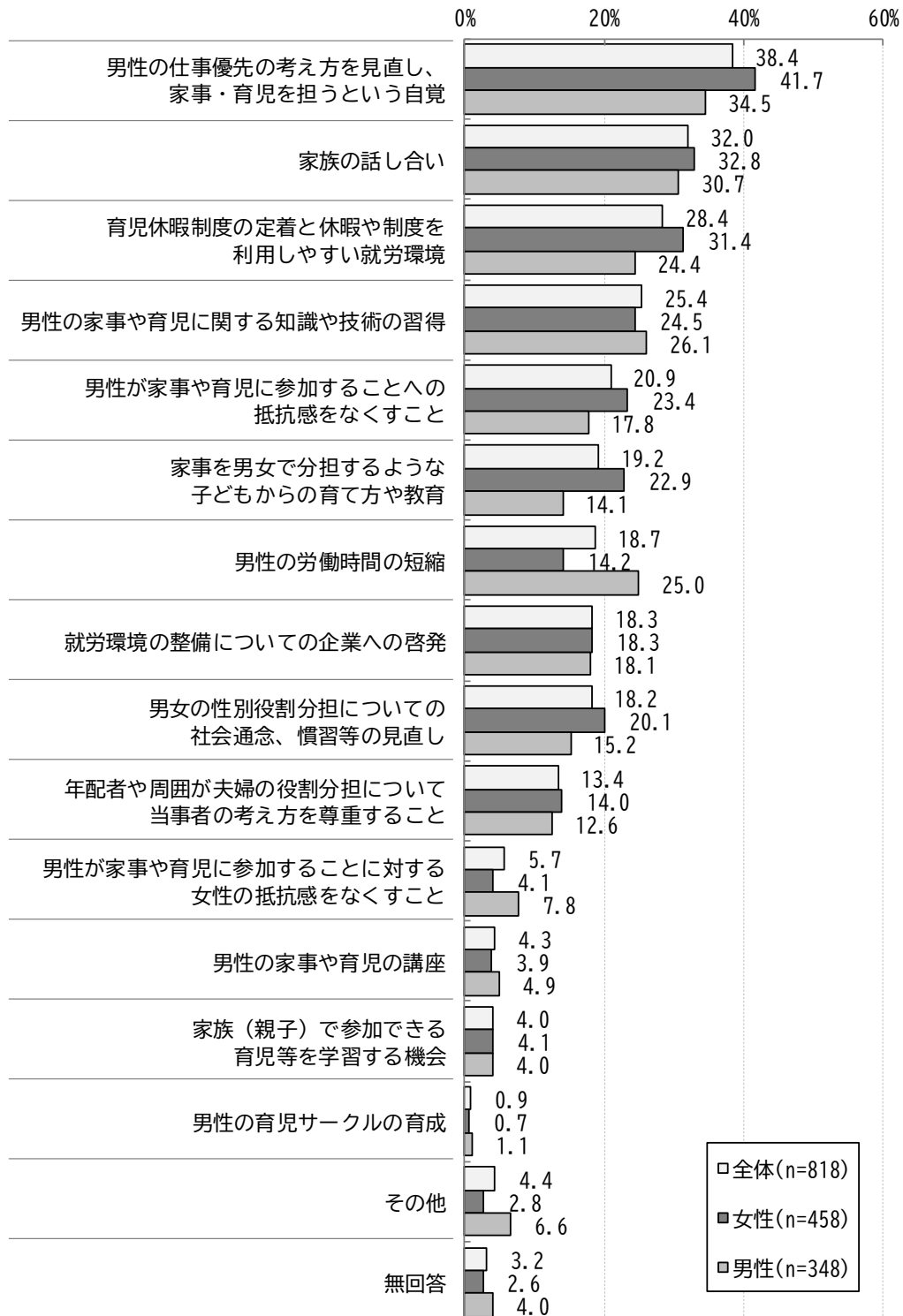
年代別にみると、すべての年代で『女性がする』が高く、50～59歳でその割合が高くなっています。一方、若年層では「該当・対象なし」が高くなっています。



(11) 男性が家事・育児に積極的に参加するために必要なこと

問3 男性が家事・育児に積極的に参加するために必要なことは、何だと思えますか。(〇は3つまで)

男性が家事・育児に積極的に参加するために必要なことについて、「男性の仕事優先の考え方を見直し、家事・育児を担うという自覚」(38.4%)が最も高く、次いで「家族の話し合い」(32.0%)、「育児休暇制度の定着と休暇や制度を利用しやすい就労環境」(28.4%)となっています。



性別にみると、男女ともに「男性の仕事優先の考え方を見直し、家事・育児を担うという自覚」が最も高くなっています。女性は「家事を男女で分担するような子どもからの育て方や教育」を男性より重視する傾向がみられます。一方、男性は「男性の労働時間の短縮」を女性より重視しており、男女で課題認識の方向性に違いがみられます。

年代別にみると、いずれの年代でも「男性の仕事優先の考え方を見直し、家事・育児を担うという自覚」が高い傾向にあるものの、40～49歳、70歳以上では「家族の話し合い」が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「男女の性別役割分担についての社会通念、慣習等の見直し」が14ポイント、「男性の労働時間の短縮」が6.8ポイント低下しています。

		男性の仕事優先の考え方を見直し、家事・育児を担うという自覚	家族の話し合い	育児休暇制度の定着と休暇や制度を利用しやすい就労環境	男性の家事や育児に関する知識や技術の習得	男性が家事や育児に参加することへの抵抗感をなくすこと	家事を男女で分担するような子どもからの育て方や教育	男性の労働時間の短縮	「男性の労働時間の短縮」や「育児休暇制度の定着と休暇や制度を利用しやすい就労環境」のような就労環境の整備についての企業への啓発
	今回調査(n=818)	38.4	32.0	28.4	25.4	20.9	19.2	18.7	18.3
	前回調査(n=521)	33.4	31.1	34.2	20.7	24.0	22.8	25.5	20.3
女性	今回(n=458)	41.7	32.8	31.4	24.5	23.4	22.9	14.2	18.3
	前回(n=267)	34.8	29.6	35.2	18.4	28.1	30.7	17.6	19.5
男性	今回(n=348)	34.5	30.7	24.4	26.1	17.8	14.1	25.0	18.1
	前回(n=213)	32.4	32.9	36.2	24.4	17.8	13.1	34.7	21.1
	29歳以下(n=79)	44.3	26.6	31.6	39.2	17.7	15.2	20.3	22.8
	30～39歳(n=93)	40.9	24.7	38.7	37.6	7.5	12.9	31.2	21.5
	40～49歳(n=112)	33.0	33.9	25.9	25.0	21.4	20.5	22.3	25.9
	50～59歳(n=162)	45.1	25.3	26.5	26.5	21.6	20.4	19.1	22.2
	60～69歳(n=169)	37.9	33.7	26.6	22.5	26.6	20.7	16.6	17.8
	70歳以上(n=195)	34.4	39.5	26.2	15.4	22.6	21.0	11.8	8.2

		男女の性別役割分担についての社会通念、慣習等の見直し	年配者や周囲が夫婦の役割分担について当事者の考え方を尊重すること	男性が家事や育児に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	男性の家事や育児の講座	家族(親子)で参加できる育児等を学習する機会	男性の育児サークルの育成	その他	無回答
	今回調査(n=818)	18.2	13.4	5.7	4.3	4.0	0.9	4.4	3.2
	前回調査(n=521)	32.2	-	-	4.0	4.6	0.4	2.7	6.1
女性	今回(n=458)	20.1	14.0	4.1	3.9	4.1	0.7	2.8	2.6
	前回(n=267)	40.1	-	-	3.7	4.5	0.4	1.9	5.2
男性	今回(n=348)	15.2	12.6	7.8	4.9	4.0	1.1	6.6	4.0
	前回(n=213)	24.9	-	-	4.7	5.6	0.0	3.8	5.6
	29歳以下(n=79)	13.9	5.1	5.1	6.3	8.9	2.5	3.8	1.3
	30～39歳(n=93)	11.8	6.5	6.5	9.7	7.5	2.2	5.4	1.1
	40～49歳(n=112)	18.8	5.4	8.0	3.6	2.7	0.9	8.9	0.9
	50～59歳(n=162)	22.8	13.0	4.9	2.5	5.6	0.0	2.5	0.6
	60～69歳(n=169)	20.1	16.6	5.3	1.8	1.8	0.6	4.7	4.7
	70歳以上(n=195)	17.4	23.1	5.6	4.6	2.1	0.5	3.1	6.7

(12) 仕事・家庭・個人生活の優先度（現状と理想）

問4 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度について、あなたの ①現状 と ②理想 をお答えください。（①と②それぞれ〇は1つ）

仕事・家庭・個人生活の優先度（現状と理想）について、①現状では、「(d)「仕事」と「家庭生活」を共に優先」(19.6%)が最も高く、次いで「(a)「仕事」を優先」(19.1%)となっています。

②理想では、「(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先」(34.5%)が最も高く、次いで「(f)「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先」(12.7%)となっています。

②理想として「(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先」が高いものの、①現状では22.6ポイントの差があります。

